



大阪府保育士会だより

# ほほえみ

令和5年  
7月1日

134号

発行 大阪府社会福祉協議会 保育部会・保育士会 大阪市中央区中寺1-1-54 ☎ 06-6762-9001

## 明るい未来につながることを信じて

大阪府保育士会長 伊藤 裕子

5月8日から5類に引き下げられた新型コロナウイルス感染症、マスクの着用は本人の意志に委ねられました。

感染防止対策に迫られた3年間でしたが、皆様のおかげでも、戸惑いながらも、日々子ども、保護者と共に向き合い少しずつ日常を取り戻しつつあるのではないのでしょうか。

保育士会の総会も、おかげさまで5月16日に参集で執り行うことができました。今年役員改選にあたり

会長として再任いただきました。どうか、引き続きよろしくお願いいたします。

さて、置き去りや、不適切な保育事業が報道され、保育現場は混乱しました。

各園ではたくさんの方の対応、マニアルの確認検討をされたことでしょうか。「していいはず」「しているつもり」になつていないかを今一度確認したいものです。

現在、大阪府保育士会員は、12,905人(3月31日時点)と、この皆様の力が

大阪府の保育を支えていただいていることに、感謝とうれしい気持ちでいっぱいです。

数は力!今年度も新しいメンバーで保育士会事業を行ってまいります。幼児教育・乳児保育のキャリアアップ研修は行いませんが、一人でも多くの会員様に学びを提供できればと、少し違った形の研修を企画しております。皆様のご希望、ご意見もお寄せください。

また、時短簡単レシピ集の第2弾も作成いたしました。研修グループ、食育推進グループ、自主研修グループに委員が分かれ、喜んでいただけるよう一丸となって頑張りますので、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。子ども家庭庁発着が子どもと保護者と保育者にとって明るい未来につながることを信じて共に歩んでいきましょう。

令和5年度

### 総会報告

## 新役員を承認

令和5年度保育士会総会が、5月16日(火)に大阪国際交流センターで開催されました。

4年ぶりの、参集開催となり、多くの会員が集うことができました。

第一部の式典では、全国保育士会倫理綱領、食育推進ビジョンの唱和、保育士の歌「私たちがいるんです」を斉唱しました。

その後、伊藤会長が挨拶に立ち、引き続き、在会10年職員代表として浅香こども園、西山加奈子先生へ感謝状が贈られました。

また、来賓を代表して大



令和5年度 大阪府保育士会総会

阪府福祉部子ども家庭局長、福本泰延様からご祝辞をいただき、主催者として、森田信司保育部会長、田中進大阪府社協常務理事がそれぞれ挨拶されました。

議事では、役員改選に伴い、新役員が承認され、令和4年度事業報告・収支決算、令和5年度事業計画・収支予算が報告されました。

第二部の記念講演ではチャイルド・リサーチ・ネット所長の榎原洋一氏をお迎えし「逆境に強い子どもを育てるには」をテーマに講演いただきました。(2面詳細)

# 「逆境に強い子どもを育てるには」

チャイルド・リサーチ・ネット所長 榊原洋一氏はご自身が小児科医でもあり、医学的データをもとに小児期の逆境体験が及ぼす発達の影響について教えてくださいました。

孤食や欠食の子どもたちがいることも明らかになりました。

そこで平成28年に子ども食堂が発足し、令和3年までに6,000件に増えています。

冒頭に、よく言われる言説「子どもの発達はロバスト(robust)力強さや耐久性を持っている」である」を紹介されました。しかし事実は、子どもの発達は、安全や安心が担保されて、初めてロバストなもの。そうした条件がなければ必ずしもロバストではないとのことでした。

世界中の子どもたちは、さまざまな逆境状態を経験しています。

例えば、飢えや貧困・難民・パンデミック・虐待・ネグレクト・家庭機能不全、親の離婚などがあります。

イギリスの研究によると、小児期逆境体験を受けた子どもは、認知発達の遅れや、喘息、感染症、心因反応、睡眠障害、免疫不全など発達や健康に影響が見られます。

そして、米国で、年間死亡者の小児期逆境体験との関連と死因を調べたデータによると、年間死亡者の15%が小児期逆境体験と関連があり、主な死因として心疾患、がん、自殺、不健康生活習慣(性感染症、薬物乱用炎症性疾患、喫煙、運動量減少)があげられました。

どのように、逆境体験を乗り越えるか、そのプロセス、個人の能力、結果などをレジリエンスといいます。レジリエンスには心身ともに満たされた幸福な状態を保

つ生育環境を整えることが、大きく関係するそうです。

- ・無条件に愛してくれる人の存在
- ・親友の存在
- ・定期的な他人を援助する活動への参加
- ・組織的なスポーツグループへの参加
- ・社会活動グループ(ボーイスカウトなど)への参加
- ・熱中できる芸術活動への参加(楽器演奏、読書活動など)
- ・親以外の援助してくれる人の存在
- ・安全で十分な食事の確保
- ・園、学校への通学
- ・家庭内の明確なルールの存在

以上の保護的、補償的体験を得ることが、逆境体験を乗り越えるために、逆境に強い子どもを育てるために必要だと締めくくられました。

それはまさに、保育士の行動そのものとも言っていたとき、尊い仕事だと再確認した記念講演でした。

## ～令和5年度 事業計画～

- ◆大阪府保育士会総会 5月16日(火)(再掲)
- ◆常任委員会の開催(原則、第1木曜日)
- ◆役員会の開催
- ◆その他保育に関わる会議の開催

- ### 保育士人材確保事業の実施
- ◆在会10年職員への感謝状と記念品の贈呈
  - ◆保育士養成校等へ保育士派遣事業

- ### キャリアアップ研修
- 『食育・アレルギー対応』  
8月2日(水)・3日(木)・4日(金)  
講師…小川川 雄二氏  
(名古屋短期大学保育科 教授)

- ### 関係団体事業への参画
- ◆大阪府食育推進ネットワーク会議
  - ◆大阪府食育推進計画評価審議会
  - ◆大阪民間社会福祉事業従事者共済会 福利厚生運営委員会
  - ◆ちやいるどネット大阪 人権保育講座企画会議

- ### 近畿・全国関係事業への協力・参加
- ◆全国保育士会常任委員会
  - ◆近畿ブロック保育士会リーダーセミナー(11月25日/神戸市)
  - ◆近畿ブロック保育士会会長会(年3回)
  - ◆全国保育士会研究大会(10月19・20日/静岡県)
  - ◆全国保育研究大会(11月16・17日/大分県)
  - ◆全国保育士会食育推進委員会
  - ◆全国保育士会食育推進研修会(8月8・9日)
  - ◆全国保育士会委員会総会(5月25日・2月15日/全社協)
  - ◆全国保育士会委員連絡会(年3回)
  - ◆都道府県・指定都市保育士会正副会長セミナー(年1回)

- ### 保育士研修会
- ◆『乳児保育について』6月16日(金)(再掲)  
講師…大方 美香氏  
(大阪総合保育大学大学院 学長)
  - ◆『造形活動について』7月27日(木)  
講師…村田 夕紀氏  
(造形教育研究所「こどものアトリエ」代表)
  - ◆『子どもの人権について』(未定)  
講師…山縣 文治氏  
(関西大学 教授)
  - ◆『マナー研修』(2月7日)  
講師…増田 知乃氏  
(有限会社レイズ 人材育成コンサルタント)
  - ◆『幼児教育』(未定)  
講師…寺見 陽子氏  
(神戸松蔭女子学院大学教育学部 教授)
  - ◆『災害時の乳幼児支援について』  
(講師/開催日 未定)

- ### 機関紙・研究レポートの発行
- ◆機関紙『ほほえみ』の発行(年4回を予定)
  - ◆研修レポートの作成  
(機関紙『ほほえみ』に記載)

- ◆各種委員会の運営  
研修企画委員会  
自主研修委員会  
食育推進委員会
- ◆ハンドブック『ほほえみ』の頒布
- ◆ブロック活動の強化



## 子どもの発達と かわりについて①

梅花女子大学  
心理学科 教授

伊丹 昌一

### Profile

特別支援教育や発達障がい児・者への支援、障がいのある子どもの家族への支援などを目的に心理アセスメントに長年携わられている。

### 困っている子どもを理解

筆者は子どもの発達支援や特別支援教育を専門としており、幼稚園や保育園、こども園等に子どもの行動観察に出かけることがあります。

訪問先の施設全体を見渡すと、子どもたちは楽しそうに過ごしているように見えますが、一人ひとりに視点を移すと、なかには困っている子どももいます。

保護者や保育者が子どもたちの困っている様子に気付くことで、「親や先生にわかっってもらえて安心」という気持ちが生え、保育園や幼稚園、こども園での生活に不安がなくなります。子ども

たちはいろいろなことにチャレンジし、さまざまな成功の体験を重ねます。そしてその後、とても成長します。それに何よりも、小学校に入学することをとても楽しみにするようになります。保護者や保育者との信頼関係が、今後の社会生活の基盤となるといつても過言ではありません。

子どもたちが示す困っているサインとしては、ことばの発達が遅れている、不器用さ、対人関係の希薄さ、コミュニケーションの取り方の違和感、こだわりの強さ、感覚の過敏さや鈍感さ、動きや衝動性の強さ、注意の集中困難、見え方や聞こえ方の違いなどや、見知らぬ大人にさえべたべたと甘え

る、おもちゃなどをよく口に入れて、気に入らないことがあると駄々をこねたり、かんしゃくを起こす、大人や子どもに対して暴力や暴言が見られるなど多くのものがあります。

このようなサインを示す子どもに向き合い、保育や教育をする中で、保護者や支援者はついつい、「困った子どもだ」と思いがちですが、本当にこの子どもたちは「困った子どもたち」なのでしょうか？

たいていの気になる行動は、一見するとどの子にも当てはまる行動かもしれませんが、その子どもにとっては困っているサインかもしれません。

保護者や支援者が一生懸命になつて気になる行動をやめさせようとしても、自分の思いを分かつてもらえない子どもは余計に気になる行動が増えてしまいます。子どもにとつても保護者や支援者にとつても辛い思いをするこゝとなり、かえつて問題を悪化させるといふ悪循環に陥つてしまいます。子どもの気になる行動を頭ごなしに否定し、強い叱責や態度で子どもを抑えつけることで、気になる行動は見えなくなるかもしれません。

しかし、子どもはその気になる行動に対する適切な行動を学ぶことができないので、子どもはどのように正しく行動すればよいのかわからず、いつ保護者や支援者に叱られる(怒られる?)かわからないという不安な毎日を過ごすことになりまゝ。また、強く叱責しない保護者や支援者の前では相手の顔色を見て余計に行動をひどくさせる場合もあります。

このような対応を続けていると、子どもはさらに不安を強め、保護者や支援者の顔色を見てびくびくと毎日を過ごすという不幸な結果となります。

大切な子どもを人の顔色を見て行動するような人にならないためにも、安心できる環境の中で共感的・肯定的に関わつてもらえることで、自らの力で良い行動をだれの前でも自発的にできるように支えることが重要です。

したがって、気になる行動をする子どもがいたとしても、育ちの背景や特性を把握することなく、頭ごなしに「困った子ども」としてとらえるのではなく、「困っている子ども」として正しく理解することが大切です。

保護者や支援者が子どもに困りごとに気付き、それを否定することなく共感し、子どもとの信頼関係を築いたうえで、気になる行動ではなく良い行動を誰の前でも自分からできるように教えることが重要です。

そして、良い行動ができるようになった時には心の底から褒めてあげることが忘れないようにしたいものです。

保護者や支援者が子どもに困っているサインに気付くことで「保護者や先生にわかっってもらえて安心」という気持ちを芽生えさせ、自己肯定感を高めた状態で、いろいろなことに勇気をもつてチャレンジし、さまざまな成功体験を積み重ねさせてあげてください。

子どもは一人ひとり違います。ほかの子どもとわが子や担当児を比較することなく、一人ひとりを大切に育てたいものです。

今回の連載では以上の観点から、子どもを否定することなく、違いや個性を大切にしたい子育てや保育・教育に取り組んでいただけよう、子どもの発達上の特性や愛着の問題等について書かせていただきました。

安易に発達障害等のラベルを子どもに貼ることでなく、一人ひとりの特性を大切に、たとえ生まれながらにどんな辛さがある場合でも、個人と環境の相互作用の中で困った状態にならないようにすることを目標としたいと思います。



# 保育の王手箱

担当 北摂ブロック

## 『体と心』のお話

～令和5年4月から文科省で命の教育がはじまったことを踏まえて～

子どもたちを取り巻く環境が、昔とは違いどんどん変化しています。さまざまな変化や状況に負けない丈夫な体と心を作るため、心や体について考える機会を作ってみてはいかがでしょうか？天王こども園（茨木市）の子どもたちが一生懸命考えたようすを交えてお伝えします。



### 1 プライベートパーツ※ (プライベートゾーン) について

自分の体は自分だけの大切なものだから、他の人に勝手に触らせたり、見せてはいけないよとさまざまな絵本を読んで伝えます。

※プライベートパーツとは水着で隠れている部分と口のこと。



▲「ぼくのはなし」作者 和歌山 静子

「わたしのはなし」作者 山本 直英・和歌山 静子

「ふたりのはなし」作者 山本 直英/絵 和歌山 静子

/発行所 童心社

▲「あっ! そうなんだ! 性と生」

出版元 株式会社 エイデル研究所/編著 浅井 春夫・安達 俊雅子・北山 ひと美・中野 久恵・星野 恵/絵 勝部 真規子

### 2 いいタッチ、わるいタッチについて

絵本を読んだあと、先生がお友だち同士のやりとりを実演してみせました。

Bちゃんにベタベタ触られているAちゃんは、どんな気持ちかな？



Bちゃんは意地悪しているのかな？

嫌そう

大好きだからかも

困っているよ

嫌がっているのに気づいてないね

Bちゃんはごめんねって言う

Aちゃんは「やめて」って言えば...

▼「いいタッチわるいタッチ」  
発行所 株式会社 復刊ドットコム  
著者 安藤 由紀



子どもたちが一生懸命考えて出した答えは、『触ったBちゃんはAちゃんが嫌だったことに気づき「ごめんね」と言う。触られて嫌だったAちゃんは、「やめて」って言えばいい』でした。「相手の気もちを考えながら、嫌なことは言葉で伝えると、自分自身を守る力につながる」ことを繰り返し伝えることが大切です。

## 編集後記

年度が新しくなつて3カ月、新入園児、新任の職員も園での生活に慣れてきたころではないでしょうか。

先日の総会および記念講演には多数の皆様にご出席いただき感謝申し上げます。

振り返ればコロナ禍の3年間は、さまざまなことに制限がかかり、子どもたちの発達にもどのような影響があるかと心配されましたが、今のところはその心配も杞憂だったように感じます。しかしながら、これからのような影響が出てくるか、見守っていく必要があります。

今年度は、キャリアアップ研修は食育だけにして、すべての保育士を対象とした研修を多く行います。これまで、なかなか研修に参加できなかった皆様もぜひ参加いただきたいと思えます。今年度も大阪府保育士会は、皆様のお力添えをいただき、活動していきたいと思つています。よろしくお願いたします。(N・Y)